

## 第二回

大東文化大学大学院

英文学シンポジウム

日時 2007年 11月 25日 (日)

午前の部 10時 30分～午前 12時 45分

午後の部 1時 25分～午後 5時 00分

会場 大東文化大学大東文化会館 4階

大東文化大学大学院英文学シンポジウム

第二回大会・総合プログラム

日時：2007年11月25日（日） 10時30分～5時00分

場所：大東文化大学大東文化会館4階

午前の部

1. 受付開始 10時 30分

2. 開会式 10時 50分

3. グループによる研究発表午前の部 11時00分～12時45分

○グループ1 11時00分～12時00分

テーマ：Idiosyncrasy as an Element of an Outsider: ひねくれた男たち

渡辺 賢二、黒川 明寛、関屋 幸太

○グループ2 12時05分～12時45分

テーマ：文学とヒップホップにおける言語の力

山崎 修平、渡辺 智彦

## 午後の部

4. ゲストスピーカーによる講演 12時25分～14時25分

題目：＜インディアンタウン＞のマーク・トゥエイン  
—晩年の未発表作に描かれたアメリカ—

大阪大学 准教授 里内 克巳 氏

5. グループ研究発表午後の部 12時35分～16時20分

○グループ3 14時35分～15時35分

テーマ：Sense of Belonging and Self-Liberation

坂巻 朋美、吉田 重人、大谷 玲

○グループ4 15時40分～16時20分

テーマ：自分らしさをもとめて —Brontë と Mansfield の作品を中心に

橋本 千春、村山 奈美江

6. 閉会式 16時30分～

講師：里内 克巳 氏 （大阪大学 言語文化研究科 言語文化専攻 所属）

#### プロフィール

京都大学文学部英米文学科卒業。京都大学大学院文学研究科英米文学修士課程修了。専門は、南北戦争以後のアメリカの文学・文化。19～20世紀転換期アメリカ社会の人種・階級・ジェンダー。

#### [研究業績]

1. 豊かさの向こう側 ―Stephen Crane, *Maggie* におけるメディア・暴力・貧困（『英文学研究』83巻 2006）
2. 赤い鳥のビーズ細工 ―ジッカラシャ『アメリカ・インディアンの物語』の構成をめぐって（大阪大学言語文化共同研究プロジェクト2005『アメリカ文化研究の可能性Ⅳ』）
3. 見知らぬ「私」との邂逅『不思議な少年、第44号』における「人種」と「自己」（大阪大学言語文化共同研究プロジェクト2004『アメリカ文化研究の可能性Ⅲ』）

#### [著書]

1. 『20世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』（共著：世界思想社2006）
2. 『視覚のアメリカン・ルネサンス』（共著：世界思想社2006）
3. 『ポストコロニアル文学の現在』（共著：晃洋書房2005）

#### [翻訳]

ジョージ・ワシントン・ケイブル著『グランディシム一族 ―クレオールたちのアメリカ南部』（共著：彩流社 1999）

## 大学院生による研究発表要旨

### ○グループ 1 (11:00~12:00)

テーマ：Idiosyncrasy as an Element of an Outsider: ひねくれた男たち

内容：George MacDonald の *Phantastes*、Mark Twain の *No.44, The Mysterious Stranger*、Conan Doyle の Sherlock Holmes をそれぞれ扱う。*Phantastes* の主人公 Anodos が「妖精の国」を冒険することによって見えてくる Masculinity を考察し、*No.44, The Mysterious Stranger* の「44号」という超自然的な存在が思春期の主人公に及ぼす影響から見えてくる Twain の思考を明らかにし、新たなヒーローとしての探偵 Sherlock Holmes の持つ要素に着目していく。

渡辺 賢二 (11:00)

タイトル：大人への道

要旨：19世紀の作家 George MacDonald (1824-1905)の初期の作品 *Phantastes* (1858)の主人公 Anodosが妖精の国を旅することで子供から大人へと変化する心の動きを Peter Pan Syndrome と結びつけて考察していく。

黒川 明寛 (11:20)

タイトル：少年からの脱出 —August のイニシエーション

要旨：Mark Twain (1835-1910)の後期の作品 *No.44, The Mysterious Stranger* (1969)の主人公 August、登場人物である 44号と、少年時代の Twain 本人の経験を取り上げ、そこに浮き彫りにされる、Twain の思考を考察する。

関屋 幸太 (11:40)

タイトル：Sherlock Holmes —新たなるヒーロー

要旨：推理小説の分野を確立した作家 Arthur Conan Doyle (1859-1930)による Sherlock Holmes は *A Study in Scarlet* (1887)において特異な存在として描かれており、Victorian 時代に現れたこの新たなヒーロー像に着目する。

○グループ 2 (12:05~12:45)

テーマ：文学とヒップホップにおける言語の力

内容：Virginia Woolf (1882-1941) と Kanye West (1977-) を取り上げ、それぞれの作品において、読み手、聞き手に作家もしくは詩人のメッセージを効果的に伝える為の言葉の表現方法を探る。

山崎 修平 (12:05)

テーマ：文学における言葉の力 —20 世紀のイギリス小説において—

要旨：小説を書く時にその対象となる読者が存在する。その読者へ伝えたいメッセージ、もしくは作家の考えをより効果的に、うまく伝えようとした時に、作家はどのような表現、もしくは単語などを使うのか。Virginia Woolf のキャラクターに用いられる表現を取り上げ、その効果を分析する。

渡辺 智彦 (12:25)

テーマ：ヒップホップミュージックにおける言語の働き

要旨：ラッパーがヒップホップミュージックの中に使う言語は標準語とは差異がある。その言語はヒップホップミュージックの歌詞が含むメッセージ性を強める為、さらに楽曲に独創性をつける為に使われる。歌詞の意味を強調し楽曲をどきジなものにする為にラッパーが使う手法（「二重否定」、「語彙における原意の逆転」、「略語」、「当て字」、等）を Kanye West 等の楽曲から抜粋し言語の持つ力について考える。

○グループ 3 (14 : 35 ~ 15 : 35)

テーマ : Sense of Belonging and Self-Liberation

内容 : 本発表では、Nathaniel Hawthorne (1804-1864) の *The Scarlet Letter* (1850)、Walt Whitman (1819-1892) の *Leaves of Grass* (1892)、Hanif Kureishi (1954-) の *The Black Album* (1955) を扱う。そして、その作中における‘Sense of Belonging’ と ‘Self-Liberation’ に焦点を当て、社会と自己の関係性を考察していく。

坂巻 朋美 (14 : 35)

タイトル : ピューリタン・コミュニティと罪

要旨 : Nathaniel Hawthorne (1804-1864) によって書かれた *The Scarlet Letter* (1850) を取り上げ、1600 年代のピューリタン・コミュニティに生きる姦淫を犯した女性 Hester を中心に考察していく。

吉田 重人 (14 : 55)

タイトル : Hybrid Identity and Metropolitan City, London in *The Black Album*

要旨 : 本発表では、Salman Rushdie 事件をもとに書かれたパキスタン系イギリス人 Hanif Kureishi の著書、*The Black Album* (1955) の *Shahid* に焦点を当て、民族意識を高める Islamic Fundamentalists と白人社会の狭間に立たされたパキスタン系移民二世の青年が何故白人の彼女を選んだのかを明らかにする。また、人種のるつぼロンドンという都市空間が作中でどのような作用をしているのかを考察する。

大谷 玲 (15 : 15)

タイトル : Walt Whitman の *Leaves of Grass* に見られる禅の思想

要旨 : Walt Whitman (1819-1892) の *Leaves of Grass* (1855) と正法眼蔵を比べ、Whitman と禅に共通する思想を考察する。

○グループ 4 (15 : 40~16 : 20)

テーマ : 自分らしさを求めて —Brontë と Mansfield の作品を中心に

内容 : 19 世紀 Charlotte Brontë (1816-1855) の *Villette* (1853) と 20 世紀 Katherine Mansfield (1888-1923) の ‘Bliss’ (1918) を取り上げる。そして、*Villette* の中では女性の生き方を、‘Bliss’ では、女性の幸福感について明らかにしていく。

橋本 千春 (15 : 40)

タイトル : 女性達の生き方 —ライバルとしての争い—

要旨 : Charlotte Brontë の *Villette* を取り上げ、3 人の女性達、Ginevra Fanshawe、Paulina de Bassompierre、Lucy Snowe のそれぞれの生き方を Graham Bretton との関係を通して考察していく。

村山 奈美江 (16 : 00)

タイトル : 内なる世界と幸福 —Katherine Mansfield の ‘Bliss’

要旨 : Katherine Mansfield の短編 ‘Bliss’ (1918) について主人公 Bertha のキャラクターに注目し、作品に見られる幸福の形について考察していく。